

会 報



写真提供：御杖村役場むらづくり振興課

時 節 を 読 む

- | | | |
|------------------|---|---------------------|
| P2 年頭あいさつ | ／ | P3 あはき等法 70 周年記念 |
| P4 原先生を偲んで | ／ | P6 第 13 回全国大会 in 大阪 |
| P7 スポーツ鍼灸トレーナー研修 | ／ | P8 第 51 回三県合同研修 |
| P9 学術研修会報告 | ／ | P10 マスコミ報道から考える |
| P11 研修・履修を考える | ／ | P12 新年意見交換会 |
| P13 イベント普及啓発活動 | ／ | P14 支部だより |

事績の踏襲だけで時勢の変化に対応ができるか

会 長 一見隆彦



新しい年を迎え、新たな目標設定をされたことと思います。昨年の就任挨拶で「業界の全体像を見た分析と目標設定へ」というタイトルで役員挨拶を掲載しましたが、定時総会以来さまざまな出来事がありました。

研修事業については第119号掲載の「学ばない者は淘汰？はり師・きゅう師の免許更新制度を考える」をご覧くださいましたので、それぞれが目標を設定されたと思います。毎年、東洋療法研修試験財団に生涯研修事業申請をして、年間25単位修得した会員を報告しており、その結果28年度は11名が単位をクリアして認定され、過去の認定集計から2名が財団理事長から表彰されました。

本会事業で数字に表せるもののうち、3年目を迎えた厚生労働大臣免許保有証の会員数に対する申請率は全国3番目です。この保有証はフェリカカードですので、今は別々になっている学術研修（GK）カードとして使えるものに変更される予定です。

広報普及事業においては「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」「2021年とこわか国体」という目標がありますが、昨年日本鍼灸師会が行った「スポーツ鍼灸トレーナー研修会」には2名を会長推薦とし、1名が個人参加しており、市民マラソン大会や青年委員会のスキルアップセミナーなどで、研修内容を伝えるミニ講座を設けて伝えています。

災害時対応（危機管理）については、三重県は南海トラフによる大規模自然災害が発生したときには最も被害を受ける地域ですので、組織・個人とも万一の場合を考えるのは当然のことです。日本鍼灸新報にも掲載されていますが、国際医療技術財団（JIMTEF）の災害研修には本会から3名が参加しています。また、災害支援鍼灸師については辞退者をのぞいてほとんどの会員を災害支援鍼灸師として登録しました。

以上のように数字で分かる目標設定については、順調に実施しています。

日本鍼灸師会では今年度から広報普及IT委員会と

国際委員会の2部門を担当していますが、一昨年と昨年の全国広報普及部長会議で「情報リテラシー」について取り上げました。

リテラシーとは読み書きする能力のことで、情報リテラシーは情報を扱う基本的な能力のことです。

通信技術の発達によって、個人が得られる情報の量は膨大になってはいますが、そこから必要なものを検索・選択して必要に応じて蓄積・加工することや、自ら情報を創出するための能力が求められるようになっていきます。これができないと誤情報を鵜呑みにして間違った情報で関連事項について判断してしまうことになります。「噂」や「報道」などへの接し方も情報リテラシーであり、昨年業界を賑わせたプロ野球に関する内容についても、さまざまな報道があったことはほとんどの会員が知っていることと思います。

情報リテラシーは、パソコンなどの各種デジタル機器や、インターネットとの関わりなしでは仕事にならない時代ですから「デジタル機器の取り扱いやネット利用の基本的知識」と説明されることもあるようですが、これらのことを現代の知識として持っておかねばなりません。

氾濫する情報への対策「メディアリテラシー」を身につける方法として「統計の知識を身につける」ということがありますが、平成27年に「情報管理とその活用～鍼灸師の経営能力を診断する」という演題で研修会を行っています。経営者として管理能力が大切なことは言うまでもありません。

会報120号で「机上学ではなく内外双方に目を向けた行動」ということを書きましたが、「医療連携」や「多職種協働」がいかに大切かを認識し、本会事業だけでなく外に目を向けるようにすれば視野は格段に広がるでしょう。

会員の皆さんには「事業計画の意図」を知っていただくだけではなく、伝統医学を生業としているなか、刻々と変化する情勢やスピードについていけずに困惑しているという声も多く聞きます。そんな時代に過去例や事績で対応しようとするということについてもリテラシーということを常に意識しつつ、「県民のための事業＝会員の要望に応えた事業」をいかに実現するかを考えながら、各事業を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

新たな年に思うこと…

副会長
法人管理総務担当 岡田 賢



昨年の年頭あいさつは「国民医療としての鍼灸の普及」に関して書きましたが、この1年の間に皆さんの施術所に「鍼灸治療を初めて受ける」という患者様は何名みえましたか？

県民は「鍼灸」という存在は知っているのです。そして「薬と違って身体に副作用もなく、身体に優しい」ということも承知していると思います。なのになぜ受療率は上がらないのか…。

日々さまざまな情報が溢れかえっている現代社会へ、確実な方法で「鍼灸の有用性」を発信し続けなければ、確実に国民医療の世界から取り残されていくでしょう。

先人から受け継いだこの鍼灸医療を、先細りさせないためにも知恵を絞り、危機感を胸に、国民・県民のための事業展開を考えていきたいと思っています。

明るい未来へ

副会長
法人管理財務担当 新谷有紀



今年は戌年ですが、「戌」という漢字は「じゅつ」と読み、「一」と「戈（ほこ）」から成り、元は作物を刃物で刈り取ったあとの何もない状態を表すそうです。取り立てて動く必要がない休息のイメージなのでしょうか。

昔話の「桃太郎」になぞらえてみますと、一昨年の「申年」、昨年の「酉年」、そして今年は「戌年」で事を進める仲間が揃いました。物語の流れでは、来年の「亥年」には、仲間と一緒に突き進むことになります。今年は、これまで以上に研修会等に参加して自己研鑽に励むとともに仲間との絆を深め、また、臨床では患者様や地域との信頼関係を確保することに努力をしてみます。

私たちの将来のため必要なエネルギーを蓄え、成長と進歩の成果が見える一年にしていきたいと思います。

あはき等法制定70周年記念の集い

2017.11.5(日) 東京有明医療大学

全国で88名、本会は天野治氏、竹田博文氏に厚生労働大臣表彰

あはき等法制定70周年記念の集いが開催され、全国で88名が「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の指導育成に尽力し、医療行政に協力する等あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの業務に関する顕著な功績」を称えられ、本会は天野治（理事）、竹田博文（監事）の両氏が加藤勝信厚生労働大臣から表彰された。

また、「あはき師の過去・現在・未来～あはき師の今後に期待するもの～」の演題で、シンポジストとして田村憲久元厚生労働大臣が講演された。（他に阿部元参議院議員、森岡東京農業大学客員教授、竹下日本盲人会連合会長）。

その後、同大学内で行われた祝賀会には、鍼灸マッサージを考える国会議員の会の議員も多数出席され、約200名が参加して盛大に行われた。



天野治氏



竹田博文氏



講演される田村元厚生労働大臣



聴講される受賞者の皆さん

前会長 原 昌子 先生を偲んで

平成30年1月18日に原昌子先生が永眠されました。

原先生は昭和61年（1986）4月22日に入会され、本会在籍32年間で、平成2年5月27日の総会で理事に就任され、以来、学術部長、組織普及部長、組織部長、女性部長、副会長の職を歴任されました。また、ユマニテク医療福祉大学校（旧ユマニテク東洋医療専門学校・旧ユマニテク医療専門学校）にて、2006年から2014年まで8年間にわたり非常勤講師を務められるなど教育にも携わりながら会務をこなされました。

平成24年5月の通常総会で本会初の女性会長に就任されてから平成27年6月までの3年間、会長として本会を牽引されたお姿が昨日のように目に浮かびます。

ここに原先生を偲び、思い出を振り返ってみたいと思います。



H8.6 スポーツ研修委員会打上げ（四日市）



H15.2 女性部がスタート（アスト津）



H15.10 第4回日鍼会臨床学術大会（金沢）



H17.10 第1回日鍼会全国大会（浜松）



H18.5 女性部親睦会（伊賀市 忍者の里）



H18.10 近畿ブロック会議（四日市）



H20.1 新年意見交換会女性会員集合（四日市）



H20.10 全国大会師会長実技供覧（宮城）



H20.11 仲野先生藍綬褒章お祝い（津みやび）



H21.2 仲野先生藍綬褒章祝賀会（四日市）



H21.5 日本鍼灸師会60周年（東京）



H22.3 四日市健康フェスティバル



H22.7 三県合同研修会 長良川鵜飼（岐阜）



H22.10 全国大会in京都（三重宴会）



H22.12 女性部研修会（会館）



H24.6 第61回全日本鍼灸学会学術大会三重大会（四日市市文化会館）



H24.9 三県合同研修会（愛知）



H25.1 役員職員新年会（津みやび）



H25.9 近畿ブロック会議in三重 担当師会の原会長が議長（四日市）



H25.12 四日市支部忘年会



H26.9 参議院会館での連盟総会と全員がカレーライスでの昼食風景



H26.9 セイリン工場見学での昼食（清水市）



H27.6.24 定時総会で任期満了にて退任される原先生

原先生の多大なるご功労に謹んで敬意を表しますとともに心から
ご冥福をお祈りいたします。合掌

一般社団法人三重県鍼灸師会 会長 一見隆彦
役員 会員 事務職員一同



H26.9 事務職員歓送迎会（津市）

第13回全国大会in大阪「大大阪フェス前夜祭」

10年ぶりに大阪で行われた第13回全国大会に先立ち、日鍼会コラボ事業として青年近畿ブロックが担当し、「大大阪フェス前夜祭」が開催されました。

3部構成の第1部は大阪府鍼灸師会理事 吉村春生先生による「How to 擦過鍼」の演題で、介護現場での擦過鍼の有用性と実情、擦過刺激によって起こる生体の変化についての講演と実技が行われ、第2部は帝京平成大学准教授 奥河清先生より「スポーツ現場におけるアスレティックテーピング」と題して、テーピングの注意点など基礎的な内容から、各競技のトレーナーとしての関わり方まで自身の経験を交えながらの講演いただきました。

第3部は一昨年の全国大会in福岡でたいへん好評であった「要穴カルタ大会」で、学生の中に現役鍼灸師も交じって熱戦が繰り広げられました。33名の参加者は終始笑顔で交流し、前夜祭を終了しました。

(報告：学術委員長 奥田一道)



第13回全国大会in大阪

2017.10.8(日)～9(祝) マイドームおおさか

10年ぶりに大阪で開催となった第13回全国大会in大阪「大大阪フェス」

近畿ブロック主管の全国大会として本会からスタッフ10名を派遣し、今回はイベントフロアで大阪名物のたこ焼きが大会期間中無料で配布されるなど、「大阪ならではの」の企画や、昨年に引き続いて「経穴カルタ大会」も開催されるなど、各種講座も含めてたいへん魅力的なイベント「祭り＝フェス」となりました。

本会からは平成28年度の第37期臨床研修会に参加された森田理事が「ブリーディングで生じた肩関節痛」として大会初日に報告されました。(平成30年1月14日の第6回研修会でも報告されました。)



森田理事の症例報告風景



大会終了後のマイドームおおさかエントランスにて

全国から936名が参加して盛会のうちに終了した「大大阪フェス・第13回全国大会in大阪」でしたが、今年は台風を避けられるだろうと予想した10月27日(土)～28日(日)の日程で、「時代を支える鍼灸～病に体にして心に」のテーマで沖縄県・沖縄県男女共同参画センターにいる、懇親会は「めんそ～れ沖縄」として会場隣のパシフィックホテル沖縄で開催されます。

(報告：学術委員長 奥田一道)

予告

(公社) 日本鍼灸師会 第14回全国大会in沖縄 2018.10.27(土)～28(日)

大会会場：沖縄県男女共同参画センターにいる / 懇親会場：パシフィックホテル沖縄(大会会場隣接)

「南海トラフ～三重県は災害危険地域である」ということを考えて

JIMTEF（公益財団法人国際医療技術財団）が主催する災害医療研修は、災害医療に関する知識と技術を有する医療技術者の育成を図ることを目的に開催されるもので、会場には鍼灸師だけではなく理学療法士や柔整師、言語聴覚士や栄養士などさまざまな職種の方が参加されており、鍼灸師会は各職種中2番目の参加者数ということで、本会からは今回で3人目の参加となりました。

ベーシックコースプログラムは「災害医療概論」「災害と生活機能低下」などの講義から、「発災から急性期の対応」「避難所運営ゲームHUG」などグループディスカッションや演習まで、幅広く災害医療に対する基本的な知識を習得する内容で、その一部を第51回三県合同鍼灸研修会in三重に取り入れました。

その後2018年1月にワンランク上のアドバンスコースへ参加し、災害時における多職種連携の在り方についてさらに見識を深めることができました。（報告：学術委員長 奥田一道）

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

昨年11月、第1回スポーツ鍼灸トレーナー研修会（講座：「アンチ・ドーピング」「医療連携とスポーツ医学」「文化の違いと国際人としてのマナー＆大人でも遅くない英単語取得術」「スポーツ医療現場と衛生管理」「ワークショップ① 病態把握からの対処法 グループディスカッション」「医療連携における考慮する事項」「多職種医療」「障害者スポーツ概論」「理学療法と鍼灸の医療連携」「ワークショップ②病態把握からの対処法 グループディスカッション」）が開催され、全国から95名が参加しました。

この研修会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに鍼灸師が選手村に配属されることが決まり、それに向けて手探りながらも関係団体が連携して準備をしようという趣旨の研修会で、本会から赤井康紀先生、仲野仁裕先生と私（瀧本）の3名が参加しました。

我々鍼灸師は単独で動くことが多く、来院された患者の皆さんの問診・病態把握・治療方針の決定・施術まで自分で判断し行動します。その結果を専門的な目で評価されることもほとんどありません。選手村やオリンピック関連で施術を行うとなると普段の臨床とは違い、さまざまな要素が求められると予想されます。医師、理学療法士、栄養士などの医療関係者との連携、チームの監督や関係者とのコミュニケーション、海外の方へのマナーや言語能力など、ただ自分たちの専門技術を提供するだけではなく、チームの中で専門職として求められる役割を明確に認識し、全うすることが必要だと感じました。

東京オリンピック・パラリンピックで私達がどのように関わっていくかはまだ決まっていますが、おそらく選手村内に設置されるポリクリニックに配属されるのは、ごく一部の選抜された鍼灸師になるでしょう。しかし、選手以外に大会関係者、メディア、スポンサー、観客など1,000万人規模の人たちが来日されますから、その時に鍼灸師に何ができるのかを考え、この一大イベントにどのように貢献し、日本鍼灸をアピールできるのかはこれからの私達一人一人の動きに関わってきます。そして、その結果や過程が「レガシー」となり、次代の鍼灸業界の活性に繋がるものと信じています。今後もこのような研修会やフィールド実習などが開催される予定ですので、本会の皆さんも積極的にご参加いただきたいと思います。（報告：青年委員長 瀧本 一）



グループディスカッション風景と修了式

東海三県の鍼灸師会防災訓練～災害時における鍼灸師の役割

第1部「災害時における鍼灸師会の取組みと課題」

講師：三重県鍼灸師会 会長 一見隆彦 先生
和歌山県鍼灸師会 会長 萩野利赴 先生

第2部「災害鍼灸の有用性

ーコソボ、インドネシアから東北、熊本へー

講師：ウィスコンシン医科大学教授
統合医療クリニック 徳 院長 高橋 徳 先生

第3部「災害発生～支援シミュレーション」



一見先生



萩野先生



高橋先生

今回は「災害時における鍼灸師会の取組みと、求められる医療連携」をテーマとし、主に災害医療を扱う防災訓練の内容として行いました。

第1部は、今後発生が予想される南海・東南海地震をはじめとする大規模災害に対して、鍼灸師会という組織としての危機管理体制の現状と課題とともに、講師の先生ご自身が行われた支援活動などでの経験とともに、災害発生の際に鍼灸師個人として、また、組織として何を考えて行動するべきか、他職種との連携も想定して普段から備えておくことの重要性についてご講演いただきました。

第2部は高橋徳先生が国内外で行われた支援活動と、実際の現場をVTRや写真にてご紹介いただき、東日本大震災での実例を示して解説され、また、鍼灸施術がもたらす人体への影響について、鎮痛作用・自律神経の調整作用・抗ストレス作用の3つのメカニズムについて、災害医療の現場において「鍼は最強の治療法である」と明言されました。

第3部は「災害発生～支援シミュレーション」として津市での発災を想定し、「三重県鍼灸師会版HUG」を用いた避難所の運営や、支援方法をシミュレーションし、防災や災害支援に対する基本的な知識と取り組み方を習得することを目的とした防災訓練プログラムを実施しました。

ファシリテーターにはJIMTEFベーシック&アドバンスコースの修了者（萩野先生〔和歌山〕、藤吉先生〔岐阜〕、一見・奥田〔三重〕）に担当していただき、5～6名のグループにて「津市で研修中に被災した鍼灸師として、皆さんのチームは帰宅を目指すor鍼灸師として支援する、のどちらですか？」「被災地である津市に支援チームとして入るとして、まずどこに行き、何を持って行きますか？」などの想定でそれぞれディスカッションを行い、チームの意見をまとめて発表し、第2部より引き続きご参加いただいた高橋先生には、それぞれのグループの発表に対する解説と総括をいただきながら、終始和やかではありますが真剣な雰囲気、参加者は災害医療に対する理解を深めていただけたと感じています。次年度は（一社）愛知県鍼灸師会が担当し、今回の内容の第2弾として11月に開催する予定です。

（報告：学術委員長 奥田一道）



平成29年度 学術研修会&イベント日程

日程・会場	演 題（予定）
■青年近畿ブロック事業 3月10日（土）～11日（日）	「（公社）日本鍼灸師会 近畿ブロック青年部一泊研修会」（兵庫担当） 演題「機能解剖学」 講師：元明治国際医療大学教授 竹内義亨 先生
第13回津シティマラソン 2月25日（日）	会場：安濃総合競技場（※フィールド実習として東洋療法研修試験財団 生涯研修5単位認定）

第2回「認知症サポーター養成講座」

講師：三重県健康福祉部長寿介護課 加藤久美子 氏

午前と午後の2部構成で、第1部は平成27年にも実施した認知症サポーター養成講座をリクエストにお応えして実施しました。

今回の受講が初めての方はもちろんですが、2度目の受講となる方も、認知症の病能や治療、予防法や接し方など理解し、また認知症の方を支えるご家族を含めた周辺の方へのサポートのありかたを考え、鍼灸師として何ができるのかを見直す、貴重な機会となったのではないのでしょうか。



「眼科領域における鍼灸治療とその可能性（臨床・研究）」

講師：明治国際医療大学鍼灸学部 特任講師 鶴 浩幸 先生

第2部は、「眼科領域における鍼灸治療とその可能性－臨床・研究－」と題して、本会学術研修会としては初めて鶴先生にご講演いただきました。

鍼灸治療は視力向上、眼疲労や眼精疲労軽減、眼循環改善、眼圧下降、毛様体筋の過緊張緩和、自律神経機能の調整、心身のリラクゼーションなどの作用を有することが報告されております。眼科領域における鍼灸施術の最新知見はもとより、生体のダイナミックな生理学的反応まで多岐にわたる内容を分かりやすくご解説いただき、鍼灸臨床においては眼という感覚器への影響のみに注目するのではなく、人体を一つの有機体としてとらえる視点の重要性を示唆頂いたように感じています。（報告：学術委員長 奥田一道）



「日本鍼灸師会スポーツトレーナー研修会」から

講師 （一社）三重県鍼灸師会 青年委員長 瀧本 一 先生

「日本鍼灸師会 第36期臨床研報告」～全国大会一般口演から

講師 （一社）三重県鍼灸師会 組織委員長 森田 輔 先生

新年意見交換会と同日に青年スキルアップセミナーと第6回学術研修会を開催し、スキルアップセミナーは、会を代表して外部研修に参加された2名の理事からの報告となりました。

森田理事（右写真上）からは、第36期臨床研修会に参加され、第13回日本鍼灸師会全国大会in大阪の一般口演で発表された症例報告を、また、瀧本理事からは日本鍼灸師会スポーツ鍼灸トレーナー研修の受講報告をいただきました。お二方とも若手青年鍼灸師の育成を目的として開催されているスキルアップセミナーの主旨にふさわしい内容で、貴重な研修の成果を発表いただき、会場の会員にとっても良い刺激となったのではないのでしょうか。

臨床研は次年度には「医療連携研修講座」として、また、スポーツ鍼灸トレーナー研修は「実習プログラム」が実施されるようですので奮ってご参加ください。



「コミュニケーションツールとしての個性心理學」

講師：名古屋セラピストオフィス花車ビル鍼灸院 院長 柴田俊生 先生

「個性心理學」とは四柱推命をベースとした統計学で、東洋医学的な思想や四柱推命を、一般人にも理解しやすい「60分類の動物キャラクター」を用いて表現したものです。

人と人との関係を構築し、いかに円滑にコミュニケーションをとっていくかは人間社会における永遠の課題の一つですが、今回ご紹介いただいた個性心理學はその課題を解決するためのヒントとなり得る考え方であると、参加者一同たいへん興味深く拝聴させていただきました。

来年度も同程度の数の学術研修会を予定しておりますが、今年度以上の生涯研修単位取得者申請ができるよう奮って受講していただきたいと思います。

(報告：学術委員長 奥田一道)



マスコミ報道から「安心・安全」な鍼灸治療にむけて

昨年9月10日、「読売ジャイアンツの澤村投手の故障の原因ははり治療が原因だった可能性がある」といった衝撃的なニュースが新聞紙面やインターネットニュースを賑わせことはご存じのことと思います。関連9団体は合同で巨人軍に公開質問状を送り、約2ヶ月後に返答がありました。

その内容は「はり治療以外にも強い力がかかる他の外的要因の可能性はある」といった文言が付け加えられていましたが、我々の側からは釈然としない回答だという声が多くありました。たとえ納得に値する返答が得られたとしても一度こういったニュースが世に出てしまうと、その後どのように取り繕っても業界に対するダメージは免れることはできません。

このようなケースは私達一般鍼灸師にも身近な問題だと言え、施術に関わる事故、有害事象、ハラスメントなどの相談件数は年々増えています。このようなトラブルが自院で起きた場合、即座に対処・反論できるだけの材料が揃っているのでしょうか？

客観的な問診、術前・術後検査に加え、使用した鍼の本数・部位・術式などをカルテに記載しておく必要がありますが、そのカルテの管理が万全という鍼灸師はどれほどいるのでしょうか。根拠のある治療方針や繊細な手技、感染症対策は言うまでもなく、術後のアフターフォローや異変を感じた場合の医療機関への紹介なども安全対策に繋がります。当たり前のことばかりですが、私も今回の出来事における報道や対応を目の当たりにして改めてカルテを見直してみると反省する所が多々ありました。

今年の秋頃から療養費の受療委任払い制度がスタートする予定ですが、この制度が開始されれば今まで以上に保険者や社会的な監査の目が厳しくなると予想されています。1年前に会報に掲載された「学ばないものは淘汰？はり師・きゅう師の免許更新制度を考える」を再読すると、(公財)東洋療法試験財団生涯研修制度の認定者数が、毎年ほぼ同じといった実態があります。療養費取扱研修の受講と併せて、私達一人ひとりがさまざまなクレームや問い合わせに対し、即座に正しい対応ができるよう、準備する必要があります。

(報告：青年委員長 瀧本 一)

「学ばない者は淘汰？」 No.2 はり師・きゅう師の研修・履修を考える

■業界の現状を把握し、変化するスピードを実感しているか？

今年1月の年頭行事（第6回研修会・新年意見交換会）の冒頭に「本会の取り組みと今後の展開」としての説明がありました。経済センサス産業分類では「療術業」に分類され、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師及び柔道整復師がその業務を行う事業所並びに温熱療法、光熱療法、電気療法、刺激療法などの医療類似行為を行う事業所をいう。これらの者が出張のみによってその業務を行う場合も含む。」とあります。

このように分類される中で宣伝広告などは無法地帯と言われ、なかなか規制が進んでいないのが現状です。潤沢な資金を持つ事業者が手掛ける営業が拡大する中で、どのように営めばいいのかを考えなければなりません。

「本会の取り組みと今後の展開」の中で、さまざまなニュースを例にした説明がありました。「ファクトとフェイク」「何が本当なのか」など、鍼灸師自身が日々刻々と変化する情勢を「判断する眼」を養わなければなりません。チェック機関が判断した表示であっても、あの人から見ればこうで、この機関から見ればこうだと相違する場合もありえます。したがって、何が本当なのかを私達自身で見極める知識が重要ですから、多職種連携や交流でさまざまな角度から分析する能力を養うことが大切になるでしょう。

■鍼灸師の経営・年収・対策は？

数年前に都道府県別の「奨学金の額（平均値）」がニュースになりましたが、その金額は驚くほどの額で鍼灸学生も例外ではありません。卒業と同時に借金生活に入り、その返済に四苦八苦しているというふうに聞きます。また、最近の業界某新聞には、「柔道整復師免許で収入格差」「経営状況は多数が苦しい」というふうに書かれています。患者自身が氾濫する情報から学び、鍼灸師の知識レベルを評価していると言われていますが、「低評価→患者数減少→収入減少」という悪い流れに乗らないようにするには、どうするかを真剣に考えなければなりません。

■平成29年度の研修試験財団生涯研修会単位取得は？

本会会員100名のうち、29年度の研修会受講会員は44名（会員数の44%）、「研修会への参加ゼロ」という会員は56名（56%）です。また、前述の研修会参加者44名のうち、（公財）東洋療法研修試験財団の生涯研修制度の単位所得者は1月14日の研修終了時点では12名で、「認定単位数25」をクリアしている会員は全体の12%という数字が出ており、研修履修率は過去5年ほど大きな変化はありません。会員の資質向上という目標がある中で、「容赦ない淘汰」の対象にならないように真剣に考えてみて下さい。

（公社）日本鍼灸師会 第1回医療連携研修講座（医連研）案内 新しい時代の医療に期待される鍼灸 「医療連携」の場で活躍する鍼灸師になろう！

日本鍼灸新報や日鍼会ホームページで案内されていますが、その内容を抜粋しますと、オリ・パラで活動し、災害医療・地域包括ケアの一員として認められ、保険診療・地域医療では医師との情報交換ができるよう“医療連携”に必須の知識と技術を学ぶというもので、対象は「はり師」「きゅう師」です。

内容は1）医療情報の交換ができるようにする（医療人としての倫理・マナー、紹介状や返信・礼状の書き方・ルールなどを知る）2）医師やメディカルスタッフと患者の病状報告や治療の検討ができるようにする（医学用語ならびに他職種の仕事内容を理解する）3）各種医学検査の内容と検査結果の意味がわかるようにする（個々の検査値だけでなく、総合的な解釈力も身につける）4）鍼灸の専門性・有効性を医師・メディカルスタッフ・行政機関に主張できるようにする（EBMを含む疫学的知識・栄養学・運動学・養生学など、幅広い知識を身につける、鍼灸治効理論や東洋医学の特質との関連など、最新の鍼灸治療の知識と技術を身につける）とありますので、奮ってご参加ください。

【日 時】 3月25日（日）10：00～17：00

【会 場】 東京衛生学園専門学校（東京都大田区大森北4-1-1）

【参加費】 会員・ぷらまいさん・学生 7,000円／一般（会員外）鍼灸師 10,000円

【締切り】 平成30年3月10日（土）

年始行事で雅な日本の古典芸能「三味線と舞い」を堪能



田村元厚生労働大臣



吉川参議院議員



オープニングの三味線と舞い



青木県議会議員



津田県議会議員



乾杯風景

年始恒例事業の新年意見交換会は第1部を研修会（青年スキルアップセミナー・第6回学術研修会／別頁掲載）、第2部を新年祝宴とする2部構成で行いました。

オープニングは新春にふさわしい「三味線」と「日本舞踊」。元厚生労働大臣田村憲久代議士、本会顧問である吉川ゆうみ参議院議員をはじめ、療養費の件でお世話になっている保険関係者や業者の皆さんにご臨席いただき、活発に、時には和気藹々と多種多様の事柄について意見交換させていただき、時の過ぎるのを忘れさせるほどあという間の時間でした。

ご挨拶の中で話題になったのが“東洋医学の章がWHOのICDに追加される”件です。田村代議士をはじめとする議員の先生方からは「WHOが鍼灸をはじめとする東洋医学の章をICDに追加することについて、今後ますます鍼灸や鍼灸師への社会的な注目の高まりが期待される」という、たいへん心強いお言葉をいただきました。

社会的注目度が高まるということは、同時に責任も増すということであり、今後、厚生労働大臣免許を保有して施術に当たる一鍼灸師としての責任の重さを自覚しながら、国民の健康に寄与するために尽力しなければと思える祝宴でした。

（報告：副会長・法人管理委員長 岡田 賢）

第4回理事会報告 [10月29日（日）13：00～17：50]

【会 場】三重県鍼灸会館 【出席者】10名【欠席】1名

【協議事項】

第1号議案 新年意見交換会（第6回学術研修会含む）タイムスケジュール等の件

第2号議案 29年度後期日程調整の件

【審議事項】

第1号議案 平成29年度予算執行状況に関する件（中間調査結果より）

第2号議案 平成30年度事業案及び予算案に関する件

第3号議案 規程整備（理事会・委員会等日当調整）の件

第4号議案 議案上程

第5号議案 その他（企業知的財産所有権の件、関係団体講習会開催予定の件、全日本鍼灸学会学術大会愛知大会委員の件）の件。（※第2号、3号議案継続審議、第4号議案該当議案なし。それ以外の議案は承認。）

鈴鹿・亀山地区で初めての開催に6,000人の人出で賑わう

「みえ次世代育成応援ネットワーク」のメンバーとなって7回目の出展となりました。悪天候のため、一部の屋外イベントの会場変更がありましたが、開催時間には天候も子どもたちの活気で雨雲を吹き飛ばしてくれたように回復し、大いに賑わいました。

小児はり体験を中心にした出展をし、「刺さないはり」体験とともに、大勢の子どもたちが展示された経穴人形、小児はり、もぐさに興味を示していました。また、他の出展企業・団体・地域スタッフからの健康相談や鍼灸体験希望者も多数あり、幅広い年齢層への普及啓発活動となりました。

毎回会場では「どこの鍼灸院に掛かれば良いか？」とのご質問をいただきます。対応スタッフは会場の地元の会員ばかりではありませんから会員施術所一覧を配付しますが、一番いいのは地元会員がスタッフとなり、「私はここで診療を行っていますよ。」と伝えられることです。参加会員にメリットとなるような交流も待っていますので、厚生労働大臣免許を持つプロ集団の活動として、健康イベントや市民マラソン大会を通じて、健康増進・受療率アップにつながる鍼灸普及啓発活動を行っていきましょう。

(報告：広報・普及委員長 楠原秀一)



師走の伊勢路で7,730人がアテネオリンピック金メダリストと走る

伊勢でのケア活動も今回で9年目となりました。鍼灸師会では、マラソン大会などのフィールドワークと併せて、臨床鍼灸スポーツフォーラムin三重やスポーツ鍼灸トレーナー研修会など、東京オリンピック・パラリンピックを始め、三重国体、ワールドマスターズゲームズ関西等のビッグイベントに向けた研修を重ねています。

ブースには20代から70代という幅広い年齢層のランナーの来場があり、鍼灸メーカー（株式会社山正）のご協力のもと、利用者にお灸のサンプル配布も行いました。アンケートの回答から、コンディショニングや鍼灸師によるケアが初めてのランナーもいれば、毎回利用されているランナーもあり、丁寧なケアやアドバイス、会場の雰囲気喜んでいただいた感想を多くいただきました。

ケアチームは活動の内容を充実させるべく常にスキルアップを心掛け、適切なアドバイスを行いながらケガを未然に防ぐとともに、スポーツ人口の増加に貢献してまいります。（報告：広報・普及委員長 楠原秀一）



（公財）東洋療法研修試験財団 生涯研修制度研修会「平成28年度理事長表彰」

平成28年度の生涯研修制度研修会で規定25単位を取得した会員は120号でお知らせしたとおり11名あり、また、財団規程の単位取得集計により2名の会員が財団理事長から表彰されました。

楠原 秀一 仲野 弥和 （順不同 敬称略）

■今年度も財団の生涯研修制度に申請して実施していますが、残り2回（津シティマラソン：フィールド実習／近畿ブロック青年部一泊研修会）となりました。毎回の研修案内に単位が書いてありますので個々に集計されていると思いますが、単位が分からない方は学術委員会までお問い合わせください。

心も体も健やかに ～座禅・お茶・写経体験とお灸教室～

昨年8月に開業して身に染みて思うのは、鍼灸は怖いというイメージを持つ人が多いことです。そこで、今まで鍼灸治療を受けたことがない人のために、茶道や書道の先生とコラボして地元の廣泰寺でイベントを実施しました。

約20名の方に集まっていただきましたが、コラボ企画ということで、鍼灸に興味のない方も坐禅・写経・茶道体験を目当てに集まっていたり、アピールすることができたと思います。

お灸教室は「セルフケアお灸教室」と題し、気楽にできることを目的に「足三里」など簡単にできる手足のツボを指導しましたが、お灸は経験がない高齢の方も多く、「こんなに簡単に気持ちいいものだとは思わなかった」と言われ、お灸の熱くて怖いというイメージが払拭され、近くの鍼灸院に行ってみようかという声も多く聞かれました。

こうしたイベントを通じて鍼灸治療を身近に感じていただくことで、私のような新米鍼灸院でも生き残っていければと考えています。



(報告：伊勢・鳥羽支部 松山真理子)

恒例の忘年会で新しい年へ向けての「企画会議」

昨年12月、四日市支部では恒例の忘年会を行いました。12名の参加があり、和やかな雰囲気でお酒と料理を楽しみ、二次会まで盛り上がりました。一見会長、仲野日鍼会会長からも激励の言葉をいただき、新しい年への糧となりました。

来年度は忘年会だけでなく、支部会と懇親会を併催することと考えておりますので、多くの先生にご参加いただき、交流を深めたいと思います。今回参加できなかった先生も次回お会いできる日を楽しみにしております。

(報告：四日市支部 天野光暢)



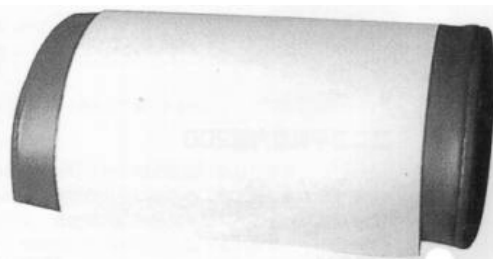
第67回(公社)全日本鍼灸学会学術大会 大阪大会

～健康・長寿を支える鍼灸学～新たなエビデンスとナラティブへの挑戦～

6月2日(土)～3日(日)の日程で大阪・森ノ宮医療大学・ハイアットリージェンシー大阪を会場として第67回全日本鍼灸学会学術大会が開催されます。高齢者研究、EBM・NBM、スポーツ鍼灸、在宅鍼灸、小児鍼、女性鍼灸、難病など魅力的な講座が満載の2日間です。

平素よりご自分の興味の沿った書物や講習会などでスキルアップや知識のアップデートをされているかと思いますが、学会では自分が興味をもっていなかった分野の講習会や実技供覧が豊富に用意されており、なんとなく聞きに入った講習会が日常臨床に非常に役立ったということが多々あります。

また、書籍やDVDを出されている著名な先生方に会場で気軽に質問できる貴重な機会でもあります。近畿圏内では5年ぶりとなる学術大会です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。



500枚 箱入 4000円

L500 x W300

一人毎に取り替えるため、衛生的で患者さんにも好評です。

医療用器具から医薬品までの総合商社

株式会社 三 和 商 事 薬 品

小 牧 市 中 央 4 丁 目 9 2 番 地

TEL (0568) 75-2467

FAX (0568) 75-7432

<http://www.sanwa-yakuhin.com/>

E-Mail : info@sanwa-yakuhin.com



「三峰山の霧氷」(美杉町)

標高1,235 m。室生赤目青山国定公園に指定される三峰山では、1月～2月にかけての厳冬期に、関西では珍しい霧氷を見ることが出来ます。静寂に包まれたモノトーンの氷の世界に雲の間から光が差し込むと、とたんに山々に生命に吹き込まれ力強く躍動し始めるのを感じます。

毎年1月～2月末まで、「霧氷まつり」が開催され、多くの観光客が神秘の世界を楽しんでいます。新年の事始めにいかがでしょうか？ (T)

編集後記

昨年より理事の任を拝命し、様々な活動、会議に参加をする機会がありました。業界の全体像に触れる中で、大先輩達が僅かな日当で会の運営、鍼灸の啓発活動に奮闘している姿を目の当たりにし、「開業してそこそこ食えるようになった」と高をくくっていた自分の姿を恥ずかしく感じます。

絶滅寸前だった戦後の鍼灸医学が復興され、今では国民の大多数が「鍼灸」という選択肢を知っています。良いイメージも大分根付いているのではないのでしょうか？これらを継承しつつどのように発展させていくか？2児の子育てパパとしては、家族に負担のかからない範囲で会務に当たりたいと思います。(T)

一般社団法人三重県鍼灸師会 会報第121号 (平成30年1月30日発行)

発行者 一般社団法人三重県鍼灸師会 会長 一見隆彦
〒514-0004 三重県津市栄町二丁目325番地
TEL 059-227-3345

e-mail harikyu_mie@vesta.ocn.ne.jp

発行責任者 楠原秀一 (広報・普及委員長)・瀧本 一 (広報・普及副委員長)
制作・印刷 伊藤印刷株式会社
表紙写真提供 御杖村役場むらつくり振興課

日本初の4年制医療系大学 そして、医療・福祉の総合大学へ



保健衛生学部

鍼灸サイエンス学科*
放射線技術科学科
医療栄養学科 管理栄養学専攻*
医療栄養学科 臨床検査学専攻*
理学療法学科
医療福祉学科 医療福祉学専攻*
医療福祉学科 臨床心理学専攻*

医用工学部

臨床工学科
医用情報工学科

薬学部

薬学科

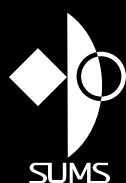
看護学部

看護学科

大学院

薬学研究科 医療薬学専攻
医療科学研究科 医療科学専攻
・名古屋サテライト（社会人コース）
・東京サテライト（社会人コース）

*平成30年4月より当名称に変更予定



SUZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

鈴鹿医療科学大学

三重県鈴鹿市岸岡町1001-1 TEL059-383-8991(代表)

日本最大級 東洋医療機器ショールーム

ITO MEDICAL

イトウメディカル



『みて・さわって・なっとく』出来る
ショールームって知ってますか？



ベッド・マクラコーナー

500台以上ベッド在庫あり!!

《気に入ったベッドをその場でお持ち帰り頂けます。》
ベッドやマクラの質感が実感出来ます!

ディスポ針・豪鍼・灸用品・

パルス・衛生材料・治療院設備など

見た事のない商品が手に取って確認できます。



鍼・もぐさ・小物コーナー



ライブラリーコーナー

鍼灸・指圧・マッサージ・カイロ・整体・柔整など
東洋医療専門書が 販売用500冊以上!

手に取って中が確認でき その場で購入可能!
出版社によって 10%offの本もあります。

《医道・たにぐち・エンタープライズetc》

こんな企画も...

=ご来店頂いた方に感謝して=

毎月10日 全品10%off

注)10日に来店された方のみです。

JR岐阜駅・名鉄岐阜駅より 徒歩約8分

是非、この機会にご来店下さい。損はしません。

イトウメディカル

〒500-8841 岐阜市高野町5-18

TEL (058)266-4598 FAX (058)266-7060

URL [http:// itohari.com/](http://itohari.com/)

E-mail ito.hari@tiara.ocn.ne.jp



イトウメディカル

駐車場完備

月に2回、日曜日も営業しています。
アクセス方法、営業日等ホームページ又は
お電話にてお問い合わせ下さい。

東京海上日動のトータルアシストからだの保険(所得補償)

所得補償はケガや病気で働けない期間
あなたの所得を補償する保険です。



業務中・日常生活を問わず補償

業務中はもちろん、レジャーや海外旅行中の
ケガ・病気で仕事を休まれた場合、保険金をお支払いします。

入院はもちろん自宅療養(※2)もカバー

(※2)入院のみ補償特約をセットした場合は入院のみが対象となります。

治療のために入院していること、または入院以外で医師の治療を
受けていることにより、全く働けない場合に保険金をお支払いします。

保険期間1年

保険金額(日額)	
所得補償	1日あたり5,000円 (免責日数7日) (てん補日数365日)

お支払いいただく保険料					
ご契約年 お支払い方法	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳
月払	2,720円	3,250円	3,770円	4,030円	4,240円
年払	31,090円	37,110円	43,040円	46,050円	48,440円

上記はご契約パターンの一例です。これ以外のパターンをご希望の場合は代理店にご照会下さい。

※ご契約年齢は、被保険者(保険の対象となる方)の保険期間開始時の満年齢をいいます。

※所得補償保険金額(日額)は、年間所得額に応じて設定ください。

「被保険者様が加入されている公的医療保険制度(国民健康保険またはそれ以外)によって保険金額の設定が異なります。」

無事故戻し返れい金のお支払いはありません。(2013年10月改定)

ご加入の際、医師の診査は不要です

健康状態告知書にあなたの健康状態を正しくご記入いただければOKです。

(ご記入いただいた内容によっては、ご加入をお断りしたり、弊社の提示するお引受け条件によってご加入いただくことがあります。)

「トータルアシストからだの保険(所得補償)」は傷害総合保険(所得補償条項)のペットネームです。

ご契約にあたっては必ず『重要事項説明書』をよくお読み下さい。

また詳しくは『ご契約のしおり』をご用意しておりますので、必要に応じて、代理店にご請求ください。ご不明な点等がある場合には代理店までお問い合わせ下さい。

(お問い合わせ先)

◇取扱代理店

株式会社あつこ保険事務所 代表取締役 奥井 あつ子

〒510-0085

四日市市諏訪栄町5-16-2F

Tel/Fax 059-350-2433

◇引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社

担当支社 四日市支社

〒510-8515

四日市市鵜の森1-3-20 萩ビル6F

Tel 059-354-8613

2017年6月作成

17-T02636

picorina

ピコリナ

鍼電極低周波治療器 セイリン picorina

管理医療機器（特定保守管理医療機器）〈クラスⅡ〉 医療機器認証番号 229AABZX00058000

往診でも持ち運びが便利な軽量・コンパクト設計

治療状況に左右されない
安定した治療電流を供給
定電流出力方式

チャンネルごとに
異なる設定で
治療ができる
**2CH
独立出力**



原寸大

出力微調整で
やさしい治療を実現
FINEモード

治療目的ごとに使い分けできる
**4種類の
出力モード**



設定の手間を省けて効率的
**プログラム
保存機能**

使いやすいタッチパネル
& ロータリーエンコーダー



公式キャラクター りんちゃん

本体仕様【定格電源】①本体：DC3.7V（リチウムイオン充電電池）、DC5.9V（ACアダプタ）②ACアダプタ：AC100V 50/60Hz【定格消費電力】12VA【出力電流】最大1mA以下（実効値）【出力電圧】最大10V±20%（ピーク値、500Ω負荷）【出力周波数】最大100Hz【タイマー】30分±5%【電撃に対する保護の形式と程度】クラスⅡ及び内部電源機器、BF形【サイズ】（H）140×（W）69.4×（D）21.8mm【重量】160g（リチウムイオン充電電池含む）



ISO13485 認証取得

■フリーダイヤル（通話料無料）はこちらから

☎ 0120-100890

■詳しい情報は、当社 Web サイトでもご覧いただけます

http://www.seirin.jp

【販売元】セイリン株式会社 【住所】〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町1007-1 【TEL】054-365-5700【FAX】054-365-5139

picorina はセイリン株式会社の登録商標（第5922043号）です。

TAKARA BELMONT Examination Table

**TAKARA
BELMONT**

SJ series

長年培った技術と、ニーズに応じたオリジナル機能で定評のあるタカラベルモントの電動診察台。様々な診療スタイルに対応する高機能はしっかりと受け継ぎながら、さらにお求めやすい価格でご提供いたします。

電動モータ式診察台

SJ-100

本体の剛性を重視した設計で
様々な診療スタイルに対応



有孔天板（孔クッション付）
※別途費用が必要です。

販売名：診察台 SJ-100
製造販売届出番号：27B1X00042000017

電動油圧式診察台

SJ-200

手術台と同じ昇降機構を
採用した堅牢タイプ



販売名：診察台 SJ-200
製造販売届出番号：28B1X00012000014

タカラベルモント株式会社

<http://takarabelmont.co.jp>

メディカル名古屋営業所
名古屋市東区芳野1-15-7

TEL:052-931-5163 FAX:052-931-7235



創立60年の歴史と実績

厚生労働大臣認定・愛知県知事認定・指定 学校法人 葛谷学園



中和医療専門学校

Chuwa Professional Training College of Medical Care

医療専門課程
(修業年限3年)

あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう科
はり・きゅう科
柔道整復科 I 部 (9:10~14:30)
柔道整復科 II 部 (15:00~19:50)

詳しくはホームページや携帯サイトをご覧ください。

中和医療

検索



スマートフォンからのアクセスはこちら ▶

〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町1-1-81 ■ Tel : 0587-23-5235(代) ■ Fax : 0587-23-5237 ■ E-mail : toiwase@chuwa.ac.jp